

黄河中流域の黄河の流れと地下水利用状況

＜玉生 志郎・石井 武政・内田 洋平・村岡 洋文＞

黄河の流れは上流域，中流域，下流域で大きく異なります。黄河断流の一因は銀川灌漑区や河套灌漑区での大量の水消費であると指摘されています。ここでは中流域に相当する黄土高原西部の寧夏回族自治区銀川市付近の流れと，黄土高原北部の内モン自治区包頭市付近の流れを紹介します。また，地下水の利用状況についても示します。



写真1 銀川市の東を流れる黄河。濁っていてゴミも浮いているが、水量は豊かである。遠くには銀川大橋が見える。



写真4 包頭南部を流れる黄河。この地点より上流である銀川市(写真1)での流れと比較すると、川床に細砂がたまり、水量も少なくなっている。



写真2 銀川市東方の黄河右岸。手前は黄土が浸食された地形が広がり、遠くには黄河の流れが見える。



写真5 河套平野では2003年頃から黄河からの引水量が制限されたために、灌漑用に大量の地下水が汲み上げられ始めた。



写真3 銀川市の東方には砂漠が広がっている。そこを楊樹で植林している。毎年少しずつ植林範囲を広げている。



写真6 河套平野では灌漑によって塩害が発生している。白く見える部分が地表に晶出している塩類である。